

# 新しい 授業づくりの 文化をつくる

令和5年8月29日  
「能力ベースの授業づくり実践講座」通信  
第5号 Cセット 教材研究会

## ■講座の目的

- ①未知の問題場面に出会っても、解決に向けて行動できる汎用的な力(資質・能力)を子供たちに育むため、学習指導要領に基づいた授業づくりについて実践を通して主体的に学ぶ。
- ②教師同士のネットワークを構築し、講座での学びを吹田市内で広げるとともに、自校でのOJTに生かすことにより、学習指導要領に基づいた授業づくりの文化を築く。

## ■講座の目標

令和6年度スタートにあたり、吹田市100%の教職員が学習指導要領に基づいた授業づくりを目指す。  
「学習指導要領に基づいた授業とは…である」を自分の言葉で語る。

Cセット教材研究会 7月10日(月) @山田第三小学校

題材名:「せんりつのとくちょうをかんじとろう」(小学校の音楽3 教育芸術社) 授業者:今村美加先生(山田第三小学校)

「能力ベース授業づくり実践講座」では、教材研究と授業研究会を1セットとして実施しています。今回はCセットの教材研究会を行いました。授業者の今村先生からは、部分の比較を通して、旋律の特徴に気付かせ、その特徴に合わせた歌い方を考える提案していただきました。齊藤先生からは、学習指導要領が目指している音楽科の能力について、創造的行動について、令和の音楽に期待される個別最適な学びと協働的な学びについてご講義いただきました。この学びを基に9月1日(金)に授業研究会が実施されます。

## 授業者の提案

今村 美加 先生  
(山田第三小学校)

## Why なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

- 音楽に対する感性を高めながら、旋律に着目し、特徴を感じ取ったり、曲想を捉えたりする。
- 音と言語を関連させる。
- 友達の意見を取り入れながら、感受性を磨き音や音楽と豊かに関わり、どのような意味があるのかについて意識する。

## What 何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

- 旋律の特徴や音の上がり下がりが生み出す曲の山を感じ取ったり、歌詞の表す様子と感じ取った旋律の特徴との関わりを考えたりしながら、それを生かした歌い方を工夫すること。

## How どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

時	学習内容・学習活動
1 本 時	『とどけよう このゆめを』 曲想をつかみ、旋律の特徴や拍と曲想の関わりに気付く。[旋律、拍]
2	曲想の変化や、歌声とリコーダーの音の重なり合う響きを楽しむ。[旋律、音の重なり]
3	『あの雲のように』 旋律の音の上がり下がりを感じながら歌う。[旋律、拍] 旋律の特徴を生かした歌い方を工夫する。[旋律、フレーズ]
4	音の上がり下がりを感じ取りながら、旋律の特徴を生かして演奏を工夫する。[旋律、フレーズ]
5	3拍子にのり、旋律の特徴を生かして演奏する。[旋律、音の重なり、フレーズ]
6	『ふじ山』 曲想と旋律の特徴や歌詞の内容と関わりに気付き、情景を思い浮かべて歌う。[旋律、強弱、フレーズ]
7	旋律の特徴や歌詞の内容に合う表現を工夫し、情景を思い浮かべて歌う。[旋律、強弱、フレーズ]

## 本時(第1時)の展開

①CDの演奏を聴き、曲全体の特徴を感じ取る。 OCDに合わせて歌唱したり、部分的に音程を確認したりする。	②アとイの旋律の特徴について気付く。 ○アとイを比べ同じ拍の中で旋律の違いを感じ取る。	③教科書の楽譜や図形を見て、旋律の特徴を感じ取る。 ○全体でアとイの違いを共有する。	④旋律の特徴に合った歌い方で歌唱する。 ○旋律の特徴を生かして歌う。
アとイ、何が違うの？ 伴奏に合わせて身体を動かしてみよう。言葉で表すこともできるよ！	やっぱり何か違うよね？	楽譜で比べてみよう。 どのような工夫をする？息の使い方・発声…聴いている人に伝わるというなあ。	ここは、こんな感じにしたい。 イは、リコーダーの音も重なっていたよ。

## 論点

本提案は、子供が音楽に対する感性を働かせ、音楽表現を工夫できる学習計画になっているか。

齊藤先生のお話は裏面へ

音楽科の目標【学習指導要領 第2章 第1節 1音楽科の目標】

表現及び鑑賞の活動を通して、**音楽的な見方・考え方を働かせ**、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

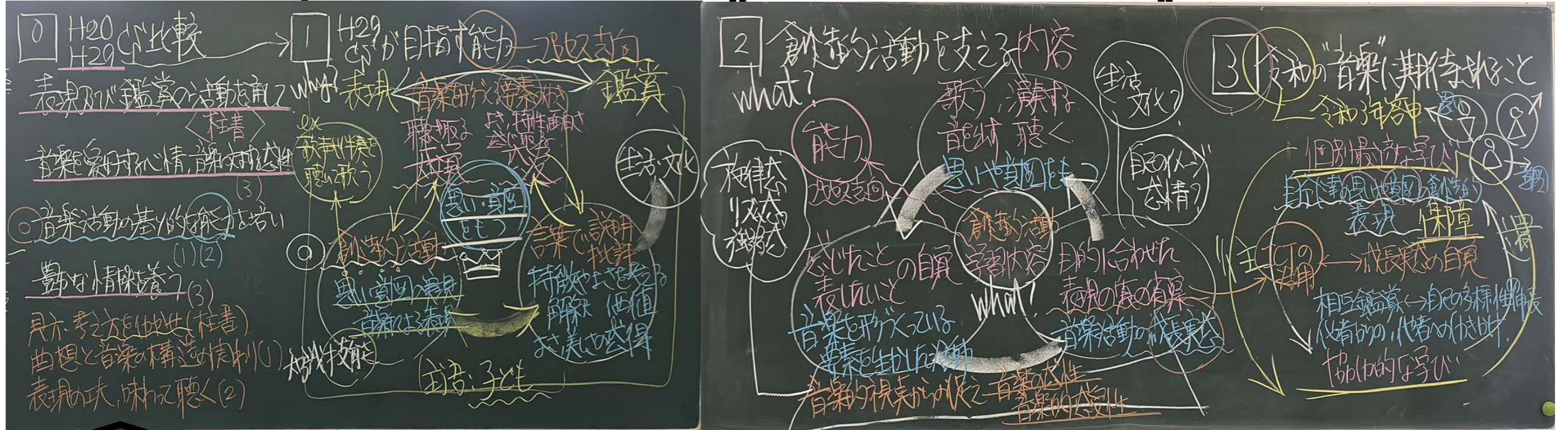
- (1) **曲想と音楽の構造などとの関わり**について理解するとともに、**表したい音楽表現**をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) **音楽表現を工夫**することや、**音楽を味わって聴く**ことができるようにする。
- (3) **音楽活動の楽しさ**を体験することを通して、**音楽を愛好する心情**と音楽に対する感性を育むとともに、**音楽に親しむ態度**を養い、**豊かな情操**を培う。

齊藤先生のお話

Why **なぜ学ぶのか**  
子供達が身につけるべき資質・能力は？

What **何を学ぶのか**  
子供達の学習対象は？

How **どのように学ぶのか**  
子供達の学習過程は？



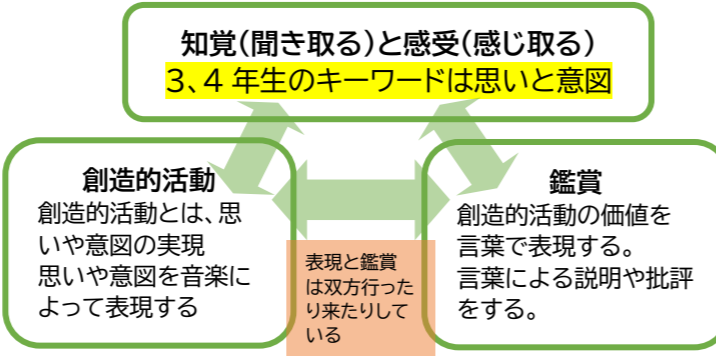
現行の指導要領を実現していくためには、前回の指導要領との違いで、今回の指導要領に、どんな要素が入ったのかを確認することが1番大事。

平成20年  
表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

現行学習指導要領で、新しく出ている文言  
①見方、考え方を働かせる  
②曲想と音楽の構造の関わり  
③表現の工夫、味わって聴く

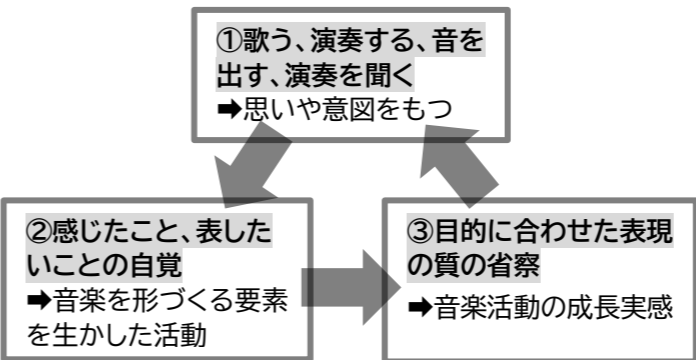
こういったようなことが思考、判断、表現の中に出てきている。

学習指導要領が**目指している能力とは何か**  
今回の指導要領は「プロセス志向」。学習活動と能力が一体化。この活動を回すこと自体が能力。



本日の実践は、大きく分けて3つある。  
①楽譜を見て歌う ②呼吸とか発音、無理のない歌い方をする ③周りの人の歌声、旋律、伴奏を聞いて、声を合わせて歌う  
その背景に、思いや意図の実現がある。これが創造的活動を回していく根幹(目的)。どんなゴールを目指そうとしているか、学習活動を推進していくための子供にとっての目的(目的的活動)を支える思いや意図がどこにあるか。  
現行学習指導要領の主語は子供。子供が音楽作りをどのように進めるかを自覚しているかが、すごく大事。

創造的活動を支える内容は何か  
創造的活動は大きく3つのフェーズになっている



プロセスは国語等の他教科と似ている。  
教科が果たす役割は違うが、子供たちが**学び進むプロセス**は共通する部分がある。  
今回の場合、**学習内容が能力**。音楽的感受性とは、この**創造的活動が回せる**ということ。

令和の音楽に期待される  
**個別最適な学びと協働的な学び**

自分または自分たちの思いや意図の創造的表現は、個によって違う。(個別最適な学び)  
その一方、他者からのまたは他者への働きかけによって、創造的表現はどんどん良くなっていく。自己の多様性の伸長。自分の中でどんどん新しいものが生まれてくる。(協働的な学びの価値)  
個別最適な学びと協働的な学びの往還がうまくいくためにはどうしたらいいか。→ICTの活用。子供たちが自由に録画再生などの共有をできるようにするのが大事。ICTは成長実感の自覚に有益。  
例えば、1学期の録画を撮っというて、2学期の後半に見直す。3年生であれば、成長の様子をICTで確かめることができる今までは、全員で、全体練習を何回も繰り返して歌う。1人1人の思いや意図が保証されているかということ、ちょっと首をかしげてしまう。もちろん、全体でやるのが全否定されているわけではない。できることであればみんなできるとともに、個別最適な学びとして自分の思いや意図を大事にしてあげたい。

最後に...これまで、国語、社会、数学、理科、英語は、主要教科、音楽、美術、技術家庭、保健体育は、副教科、技能教科とか実技教科と言われてきた。  
これからもうその表現はやめていきたい。**どの教科もそれぞれ能力を育てている。子供の能力を育てる教科だという風に言っていきたい。1番今日言いたかったことは、音楽は能力を育てていること。**そこをもう1回確認したい。そうしないと、いつの間にか、どういう風にすればいい声が出るか、1時間がより盛り上がるかという話になってしまう。  
音楽では、創造的プロセスが回せるような子にしていきたい。そうやって音楽を楽しんでいける子供にしていきたい。

【編集後記】  
学校で何気なく使っている言葉を細解くと、そこに教育が見えてくることを学んだ本講座。何気なく使う言葉に「WHY」の視点を持つ大切さを実感した。(文責:教育センター山塾)